

# 高知県高岡郡佐川町桂方言の 比喩語について

上野智子

はじめに

1. 調査対象地：佐川町は高知市から27km、車で約50分の高知県中西部に位置し、この地域の産業・経済・文化の中心として栄えてきた城下町である。温暖な気候のもとに茶・果物・野菜を産し、伝統的な酒造業は有名である。桂集落は5つある地区のうち、中心となる佐川地区の北西部にある52戸、148人の農業集落で、北と南の2つの谷沿いに半数ずつ分布している。調査は北で実施した。
2. 調査年月日時：1992年12月5日午後1時10分～3時30分
3. 話者：広田梅亀 明治39年7月14日生（86歳）  
明神梅亀 大正4年2月17日生（78歳）
4. 調査者・調査場所：上野 智子、話者宅の縁側
5. 調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。そのあと『高知県方言辞典』から選び出した比喩語および比喩表現について尋ねる方法を併用した。2人の梅亀さんは隣人同士で気心の知れた話友達で終始和やかな雰囲気で行った。が、明神さんは89まで同席し、以後は所用のため、広田さんだけの調査となった。1～77のN.R.は回答が得られなかったことを意味する。

## I 〈 自然現象 〉

1. 日照り雨 サダチ
2. 入道雲 ドヨーグモ
3. 旋風 タツマキ
4. 霜柱 シモバシラ
5. つらら ツララ
6. 北斗七星 ナナツボシ
7. 昴 ホーキボシ
8. 流れ星 ナガレボシ

## II 〈 動物 〉

9. かわはぎ ハゲ
10. ひらめ N.R.
11. ひきがえる オンビキ
12. 青大将 ヤネトシ、ネズミトリ

13. とかげ トカゲ

14. かまきり エボージ、エンボージ

15. みずすまし ミズスマシ

16. きつつき キツツキ

17. せきれい セキレイ

18. ふくろう フクロー、フルトゥク

## III 〈 植物 〉

19. 馬鈴薯 ジャガイモ

20. とうもろこし キビ、トーモロコシ

21. いんげん豆 インゲンマメ

22. そら豆 ソラマメ

23. 木くらげ キクラゲ

24. げんもしょう ベンジョクソ腹痛に効

25. どくだみ シューサイ、ドクダミ

26. いたどり イタズリ, イタドリ  
 27. からすうり ブドージ 実の中に地蔵様(童子)のような形の黒い種が入っている。  
 28. すみれ スマレ  
 29. 春蘭 ジジババ (花), エクリ 花の形が男の持ち物と女の持ち物に似ている。  
 30. 母子草 N.R.  
 31. ねむの木 ネムリソウ

IV < 性向 >

32. 熱しやすく冷めやすい人 タリヨイ ヒト  
 33. あわてん坊 ソソツカシー  
 34. 動作の鈍い人 ドンクサイ  
 35. 嘘つき ウソツキ, アテンナラン  
 36. ほらふき ホラフキ, オッコーナ  
 37. おしゃべり オシャベリ  
 38. 冗談言い ヒョーゲル  
 39. 口先だけの人 アリヤ クチバージャ。  
 40. とんちんかんなことを言う人 N.R.  
 41. のらりくらり煮えきらない人 ニブイ  
 42. 怒りっぽい人 オコリンボー  
 43. 気むらな人 N.R.  
 44. 泣き虫 ナキミソ  
 45. おてんば娘 オテンバ, ハチキン  
 46. 腕白坊主 テコニアワン  
 47. 出しゃばり デシャバリ  
 48. どこへでも顔を出す人 イキズキ  
 49. 家にこもって外出しない人 ヒッコミシアン  
 50. 小心者 キモッタマノ コンマイ ヒト  
 51. 内弁慶 ソトスポモリノ ウチヒロゴリ  
 52. 人づきあいをしない人, 社交性のない人 カワリモン, ウチスポモリ  
 53. 妻に対して頭の上がない男 カカダイミョージン  
 54. けち ケチンボ, ニギリ  
 55. 欲張り ヨクバリ

V < 食生活 >

56. 大食漢 オーグイ  
 57. ぼたもち ヤーラカモチ  
 58. 砂糖味が薄い サトウリガ エンポー トーチュー。

59. 塩味が薄い ショーユウリガ チカ トーツチュー。
60. 大酒飲み オーザケノミ
61. 酒に酔ってくだをまく クダマク、スイキョー
62. 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま シュドージ

IV 〈動作・様態〉

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま N.R.
64. どしゃぶりの雨 サダチ
65. ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ビシヨヌレ
66. 服装がだらしないさま グラシナイ
67. 髭がのび放題なさま ブショー
68. 厚化粧をしているさま N.R.
69. 背丈の高い人 ノッポサン
70. 出びたい デボチン
71. 汗が額から流れ落ちる アセカキ
72. 目を丸くする ドングリメ
73. 口をとがらす N.R.
74. 焦げ臭いにおい ナニヤラ コゲヨル。
75. 遠廻り(を)する N.R.
76. 末っ子 スエッコ、オトンボ
77. 一生懸命頑張る ヤリテ

〈その他の比喩語〉

78. トリカブト、カブト とさか ○カブトガ アカイジャー アオイジャー ユーテ  
ネー。アカイケ タマゴ ヨー ウム ユーテ ネー。とさ  
かが赤いとか青いとか言ってねえ。赤いから卵をよく産むと  
言ってねえ。
79. イシノマナイタ 石の狙 ○トゥッカエン モノノ コトオ イワー ネー。使えな  
いもののことを言うよねえ。
80. トコロガ ナイ 満腹 ○オナカガ ハッタラ モー トコロガ ナイキ ハイラ  
ン イワー ネー。おなかが張ったら、もう満腹だから(何  
も)入らないと言うよねえ。
81. トーミミ 遠耳 ○ナニカ ヨー キコエル ヒトワ トーミミ イワー ネー。  
ナニカ ヨー シツチュー ヒトワ。何でもよく聞こえる人  
は遠耳というよねえ。何でもよく知っている人は。
82. テモチガ ワリー 手持ちが悪い ○ナニカ シタチ ネー。ススス エーセン

- キヨーニ ナイ ヒトオ ネー。何をしてもねえ。さっさつとはできない、器用ではない人をねえ。
83. テモ チョーシモ ナカッタ 手も調子もなかった ○スット ハヨー シヌル  
ヒトノ コトラオ ネー。テモ チョーシモ ナカッタ  
ユー ネー。スット ハヨーニ ミテタリスル ヒトラワ  
ネー。すつと速く死ぬ人のことなどをねえ。手も調子もなかつた  
と言うねえ。すつと速く死んだりする人のことをねえ。  
※「打つ手がなかった」の意。人の死についてのみ用いる。
84. テハリモ セン 手張りもしない ○ジブンガ ナニカ ヒトニ ヤルガ オシー  
ヒトノ コトジャ ナカロ カネー。自分が何かを人にやる  
のが惜しい（と思う）人のことではないだろうか。
85. ツイデノ モチワ コガ イラン ついでに搗く餅は粉が要らない ○ジブンニ  
テマノ カカランヨーニ スル コト。モチニ カギラズ  
ネー。ヒトノ シユノエ ネー。自分に手間がかからないよ  
うにすること。餅に限らずねえ。人がしているのへねえ。  
○ヤリカケチューガヤッタラ ヤッテモ ツイデノ モチワ  
コガ イラン。やりかけているんだったら、ついでの餅は粉  
が要らない。
86. ハイモ タカラン 蠅もたからない ○オイシュナイ モノワ ソガニ イワー  
ネ。ハイモ タカランヨーナ モノワ クエン イワー ネ。  
おいしくないものをそんなふうにするね。蠅もたからないも  
のは食べられないと言うね。
87. タカニ ナル 鷹になる ○エラソーニ ユー ヒトオ ユーロー。タカワ エライ  
ケン。リキュンダリ スル ヒトオ ソー ユーロー カネ  
ー。偉そうに言う人を言うんだらう。鷹は偉いから。力だ  
りする人をそう言うんだらうかねえ。
88. ゾーオ モム 臆を揉む ○アレモ センナン コレモ センナン オモテ ハー  
ハーハー オモウ コト。あれもしなければこれもしな  
ければと思っはあはあはあはあと思ふこと。
89. ナマグサオ クー 婚約する ○ナマグサ ユタラ オサケトー オサカナ モツ  
テ イクケ ネー。ソコノ ヨメサンノ ホーエ。コノヒト  
オ モライマスト ユー ショーコミタイナ モンジャロ  
カネー。イッシュニ、ナルヨニ ナッタラ ナマグサ クタ  
トージャ ユテ ユーケ ネー。なまぐさと言ったらお酒と  
お魚を持って行くからねえ。そこの嫁さんの方へ。この人を

貰いますという訃掘みみたいなものだろうかねえ。結婚することになったら、「なまぐさを食べた」と言うからねえ。

90. クチズモー 口相撲 ○リョーホガ コラエアイツツ ユーガジャ ナイロ カネー。コッチャモ イー コッチャモ イーシテ。両方がこらえあいつつ言うことではないだろうかねえ。こちらも言いこちらも言いして。
91. オーホラカキ 大法螺吹き ○オーケニ モノ ユー ヒト。大きくものを言う人。
92. エギモトマデ キタ 喉元までが来た ○エギモトマデ キタケン モー クエレン ドー。オナカガ イッパイニ ナツタケン タベレレン。喉元まで来たからもう食べられないよ。おなかがいっぱいになったから食べられない。
93. アブラオ トル 油をとる ○ヒトニ シゴト サセチョイテ ジブンワ セン。人に仕事をさせておいて自分はしない(ような怠け者)。
94. ウシノ ノドカラ ヒッパリダイタヨナ モン 牛の喉から引っ張り出したようなもの ○キモノラーデモ テヌグイラーデモ キーン ナツタリスルガー アリャ ウシノ ノドカラ ヒッパリダイタヨナ モンジャッテ イワー ネー。キタノーナツタ ガオ。着物などでも手拭いなどでも色が黄ばんだりするのを、あれは牛の喉から引っ張り出したようなものだと言うよねえ。汚くなったものを。
95. カラシトロボ 辛子蜻蛉 ○アカイ ガワ。赤いのは。
96. イヌゴロシ 犬殺し ○ソレオ クタラ イヌガ シヌルガデスロ カ。それ(=草)を食べたら犬が死ぬんでしょうかねえ。
97. イトメ 糸目 ○イトメ ユー ネー。ホソイ メワ。糸目と言うねえ。細い目は。
98. ドングリメ 団栗目 ○メソ グルグル マワッタヨーナ メワ ドングリメ。ひどくぐるぐる回ったような目は団栗目。
99. ソトビラキノ ウチフスボリ 外開きの内すぼまり ○ウチニ キゲンノ ワルイ ヒトワ。内に機嫌の悪い人は。※51の対語
100. アリガ シンデシマウ 蟻が死んでしまう。○アルクニ オソイ ヒトワ アリガ シンデシマウ ユテ ユワー ネー。歩くのに遅い人は蟻が死んでしまうと言うよねえ。
101. アリコロシ 蟻殺し ○アルイテ イク ヒトワ ネー。アリオ フンデシマウロー。(遅く)歩いて行く人はねえ。蟻を踏んでしまうだろう。
102. アメガ ブラサガル 雨がぶら下がる ○クモッテ キタラ ネー。モー アメガ ブラサガッテクル。アメガ クル ゼヨーッテ ヨー イワ

— ネー。マー フルヤラ シレント ユー ガー。曇って  
来たらねえ。もう雨がぶら下がってくる。雨が来るよってよ  
く言うよねえ。まあ降るかもしれないということをおねえ。

103. アキレガ カタ コス あきれが肩を越す ○アンマリ ナンデモ ナイ コトオ  
ユータリ シタリ スルロー。ソシタラ アキレガ カタ  
コス ユワー ネー。あまり何でもないことを言ったりした  
りするだろう。そうしたら、あきれが肩を越すと言うよねえ。

104. アエテ クーパー アル あえて食べるぐらいたくさんある ○ヨケ アル コト  
オ ユー。タベルニ ドッサリ アル。たくさんあることを  
言う。食べるのにどっさりある。※「あえる」は「あえもの  
にする」の意。

105. カッケヨージョーバー ハタラク 〈アクセント欠〉 脚気養生ほど働く  
脚気は体を動かさないとかかるぜいたく病であるが、それを  
わずらう暇もないほど忙しく働くこと。

106. シチブトラズノ サンプヌケ 〈アクセント欠〉 七分足らずの三分抜け、つまり大  
馬鹿物 ○アノヒトワ シチブトラズノ サンプヌケニ カ  
ーラン デ。あの人は七分足らずの三分抜けに違いないよ。

なお、105・106 は佐川町の他集落で高知大学人文学部3回生、山松武博・藤田真紀の両  
氏が、それぞれ別個のテーマでフィールドワークを行った際、偶然得られた事象である。  
また、89「ナマグサオ クー」に関連して、宮崎県高千穂町方言の類似事象「チャイレ」  
が、同じく3回生林田雅子氏より、以下のように報告されたので、紹介しておく。

○結納のことをチャイレ〈アクセント欠、以下同〉と言う。

○結納のときに、男性側が女性側にお茶を持っていく。その際、お茶の葉を入れる袋が  
ある。その袋の口を閉じる紐の結び方が男女では異なり、それぞれオチャー・メチャ  
ーと呼ばれる。

○話がまとまると、「コンヤクガ トトノイマシタ」と言って、男性側のお茶の葉と女  
性側のお茶の葉をまぜてお茶をいれて飲む（ハナシオ チャデ カタメル）。

○また、破談となった場合には「チャガ ハイランカッタ」と言う。

○披露宴においては「お茶の披露」というものが式次第中にあり、新婦のいれたものと  
して出席者にお茶が出される。

(うえの さとこ 高知大学人文学部)